

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立御園中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学習カードを使用することで、授業の見通しをもって制作をすることができた。
- ・1年次または2年次で学習したことを活かして絵を描こうとしている。

(2) 課題

- ・授業中に忘れ物を取りに行かせないために、前の授業終了時に持ち物の確認を行い、また授業開始前に本日の授業で必要なものを生徒に呼びかける必要がある。
- ・制作スピードの遅い生徒には放課後補習を行ったため、課題の精選を行う必要がある。また、時間配分や毎授業時に目標や達成すべきことを提示する必要がある。
- ・向かい合わせの机のため、どうしても私語が多くなってしまう。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

学習効果測定未実施のため、授業の様子や小テスト、定期テスト等の結果をもとに、分析・授業改善を行う。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・美術の学習における基礎的な部分の書体や色についての知識を学び、理解することができた。 ・用具の正しい使い方について身についてきている。	・見る人に何を伝えたいのかをわかりやすいように、自分の発想を作品に表現しようとしている。 ・授業で学習したことを生かして制作に取り組んでいる生徒が多い。	・制作に対する意欲が高いが、向かい合わせの机のため私語が多くなってしまう生徒がみられる。 ・作品や道具の片付けのなど、各自また班ごとに責任をもって行えている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1年次で学習したことを活かして制作しようとしている。 ・制作は好きだが、知識分野のテストが苦手な生徒が多い。	・課題の特性を考え、伝える目的や条件、中身のイメージをもとに構想を練ったり表現しようとしている。 ・他人の作品の良いところや工夫した点を見つけていることができる。	・下書きが思いつかず時間をかけすぎてしまう生徒が少数いた。 ・向かい合わせの机のため私語が多くなってしまう生徒がみられる。 ・うまくできたところや、改善したい部分を学習カードに記録できている。

第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1年次2年次で学んだ技法を応用して制作している。 ・修学旅行の事前学習として仏像の種類や特徴などの知識を学ぶことができた。	・表現したいテーマに合わせ、技法をよく吟味して作品作りに活かすことができた。 ・ルネサンスや仏像など時代による表現の違いなどを読み取ることができた。	・新しい課題に関心をもち、学んだ図法や用具を活かしながら、集中して制作に取り組んでいる。 ・作品や道具の片付けのなど、各自また班ごとに責任をもって行っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・筆や用具の使い方、レタリングの手順など美術の基礎をさらに定着させていく。 ・単元同士につながりを持たせ、繰り返し復習させるような活動を取り入れる。	・授業内での声かけを増やし、生徒が豊かな発想できるようにサポートする。 ・鑑賞の時間を通して様々な発想や考え方について学んでいく。	・わかりやすい授業を目指し、生徒の能力を発揮できるよう努める。 ・毎授業、取り組む内容ごとに作業効率を意識させるため、片付け時の注意点など確認し、共通理解を心がける。 ・一斉指導の後に机間巡視をすることで、個別指導を行い生徒の様子をよく観察する。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・1、2年次に学習した内容を繰り返し復習させる。 ・3年次に繋がる単元を取り入れていく。 ・知識は、授業の中で復習をすることで知識の定着を図る。	・できるだけ鑑賞の時間を設けるようにする。他人の作品を観ることで、さまざまな表現の仕方があることを学ぶ。 ・ただ作るのではなく創意工夫をさせる。	・毎授業、取り組む内容ごとに作業効率を意識させるため、片付け時の注意点など確認し、共通理解を心がける。 ・一斉指導の後に机間巡視をすることで個別指導を行う。作業が滞っている生徒には、どの部分で迷っているのかを声かけによって把握し、選択肢を残して具体的な案を提示する。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

・ これからも３年間で身につけた技能を発揮できる題材を選んでいく。 ・ 自分が得意な技法や表現方法に気付かせられるようにする。 ・ 義務教育最後の学年となるため、多くの知識や教養を身につけさせたい。	・ できるだけ鑑賞の時間を設けるようにし、さまざまな表現の仕方があることを学ぶ。 ・ 授業内での声かけを増やし、生徒が豊かな発想をできるようにサポートする。 ・ 西洋だけでなく日本の美術など幅広い表現について学ばせる。	・ 反省の記録を通して、自己実現や問題解決能力を身につけさせたい。 ・ さまざまな制作を通して自分は何が得意で苦手なのか知り、自己理解につなげていく。 ・ 一斉指導の後に机間巡視をすることで、個別指導を行い生徒の様子をよく観察する。
---	---	--